

□ 書評 □

川村次郎・竹内孝仁(編集)

義肢装具学(第2版)

武智秀夫

(吉備高原医療リハビリテーションセンター院長)

この度、川村次郎、竹内孝仁両先生の編集による義肢装具学(第2版)が上梓された。まず最初に40名近い執筆者の書かれたものを理学療法士、作業療法士養成校向けのものにまとめられたことに敬服する。

順を追って本書の内容を紹介しよう。I部は歩行のバイオメカニクスで健常歩行、義肢装具歩行が、ついで義肢装具のバイオメカニクスが総論として述べられている。II部は義肢編で、切断、義肢総論、下腿義足、大腿義足、股義足、サイム義足、足部部分義足、義手、切断者のリハビリテーション、III部は装具編で、装具総論、片麻痺の下肢装具、対麻痺の下肢装具、スポーツ障害の装具、小児装具、整形外科の治療装具、靴型装具、足装具、杖、歩行補助具、頸椎装具、側弯装具、腰背痛の装具、脳性麻痺の装具、リウマチの装具、末梢神経損傷の装具、手の外科の術前・術後の装具、頸髄損傷の上肢装具、車いす、座位保持装具、自助具・福祉用具、義肢装具の材料学、義肢装具に関する法と制度であり、項目として義肢装具を網羅している。ま

た、各項目毎に演習問題がつけ加えられているのも特徴的である。

各執筆者の記述のスタイルの統一には随分ご苦労されたと思う。冗慢な記述は少なく編者の意図である「臨床に密着した」ものがよく読みとれる。また各項目毎の重複した記載も少なく、この点も編者の目的は達成されているのではなかろうか。

理学療法士、作業療法士は義肢装具を処方する立場にはないものの、リハビリテーション医療の現場で障害者に身近に接している。理学療法士、作業療法士の義肢装具に関する意見を直接障害者に説明し、問題が生じることは医療現場でよく経験することである。理学療法士、作業療法士が義肢装具に関与するルールといったものにも触れて頂きたかったように思う。

本書は理学療法士、作業療法士養成校のテキストとしては十分過ぎる内容と適切な記述を含んだもので、義肢装具についてこれだけ即物的な知識をもてば、理学療法士、作業療法士にとり非常に有益であると考え

る。再度編者に満腔の敬意を表するとともに、自信をもって、理学療法士、作業療法士の方々に本書を推薦する。

● B5 頁418 図174 写真246 表36

定価(本体7,000円+税) ㊦ 400 医学書院・刊